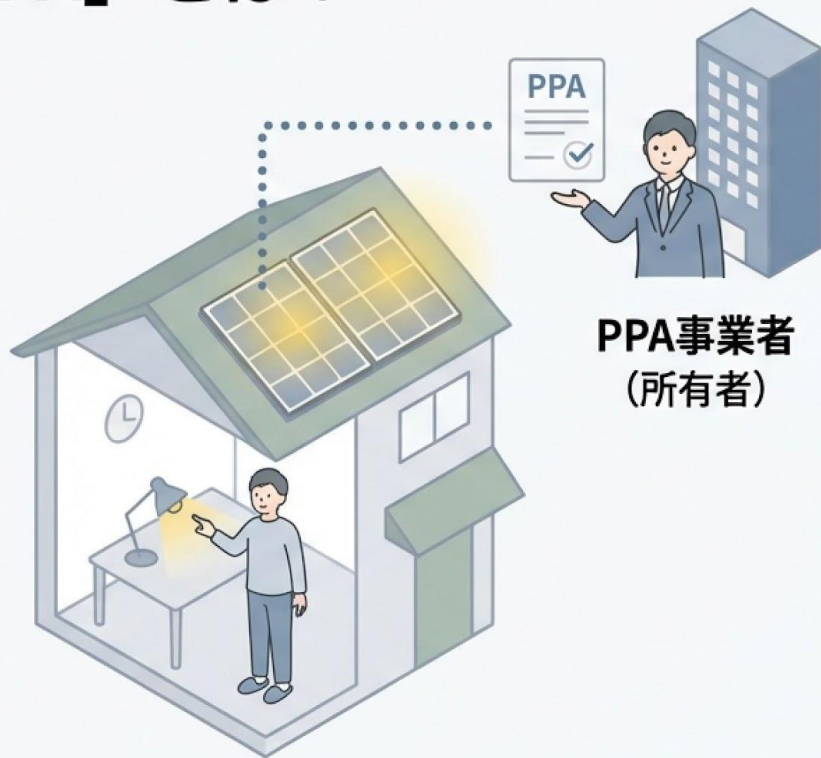


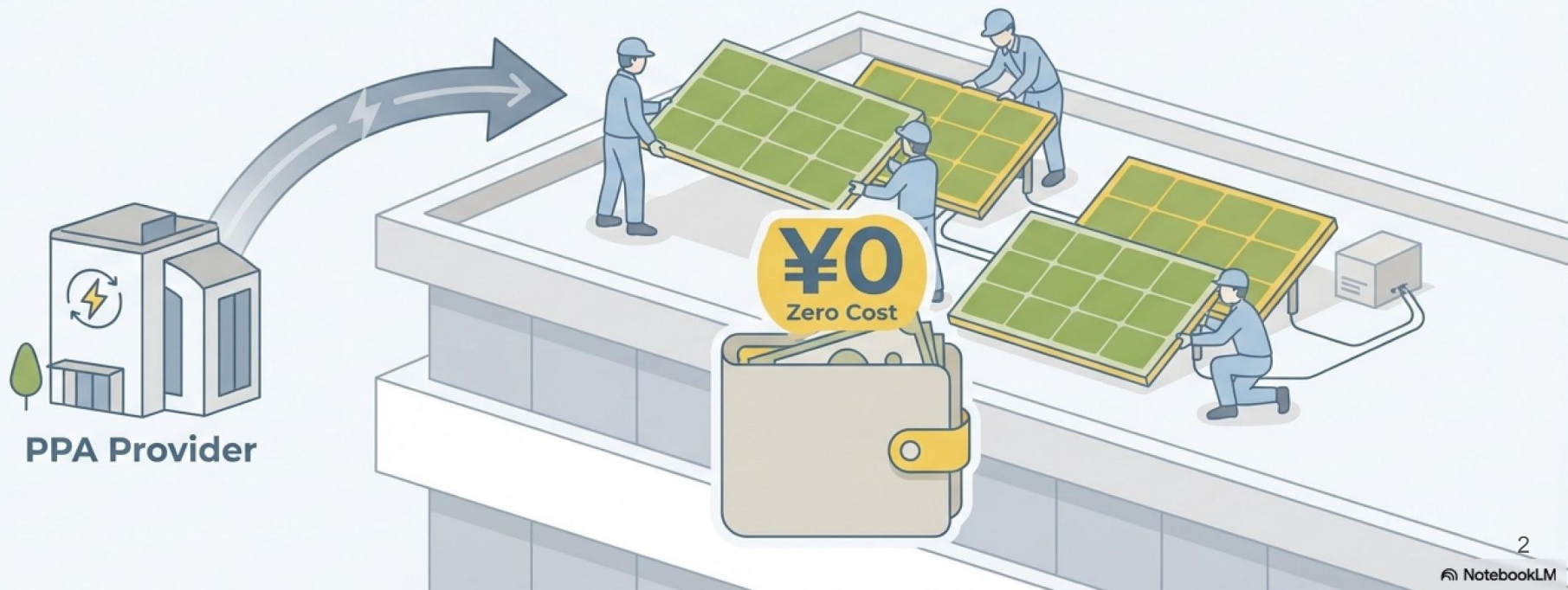
# 太陽光発電の導入モデル「PPA」とは？

- 太陽光発電の普及に伴い、一般的になりつつある導入手法「PPA (Power Purchase Agreement)」について解説します。
- 日本語では「電力販売契約」と訳されますが、その実態は「第三者が所有する設備で発電した電気を購入する契約」のことです。
- 従来の「自分で購入して設置する」方法とは異なる、太陽光発電の利用形態です。



# 設備設置費用の負担がない仕組み

- PPAの大きな特徴は、ユーザーが設備購入費や工事費を直接支払う必要がない点です。
- 太陽光パネルや周辺機器はPPA事業者が購入し、ユーザーの施設の屋根などに設置します。
- ユーザーは「設置場所」を提供する代わりに、初期投資の負担なく再エネ設備を導入できます。



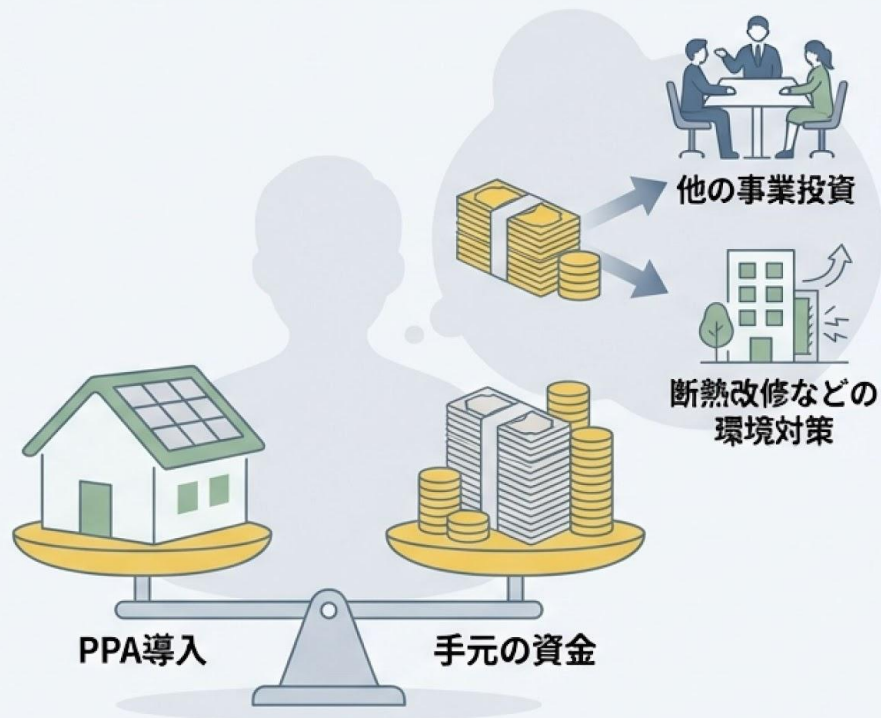
# PPAの構造：所有と利用の分離



- 自宅の屋根に設置されていても、契約期間中の設備所有者は「PPA事業者」です。
- ユーザーは、屋根で発電された電気を使用した分だけ、サービス料金（電気料金）として事業者  
に支払います。
- 「所有」と「利用」を切り離れた、サブスクリプションに近いモデルと言えます。

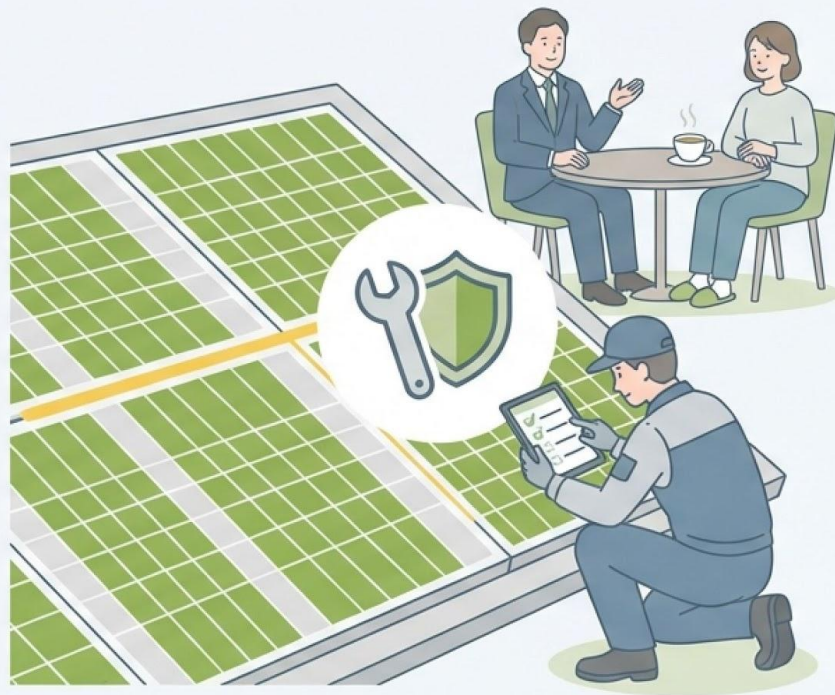
# PPAが選ばれる理由1：資金調達の不要化

- 企業や家庭がPPAを選択する主な理由は、まとまった資金を用意せずに済む点にあります。
- 自己資金の持ち出しや、銀行からの借入（ローン）を行うことなく、太陽光発電を開始できます。
- 資金を他の事業投資や、断熱改修などの別の環境対策に回すことができるという利点があります。

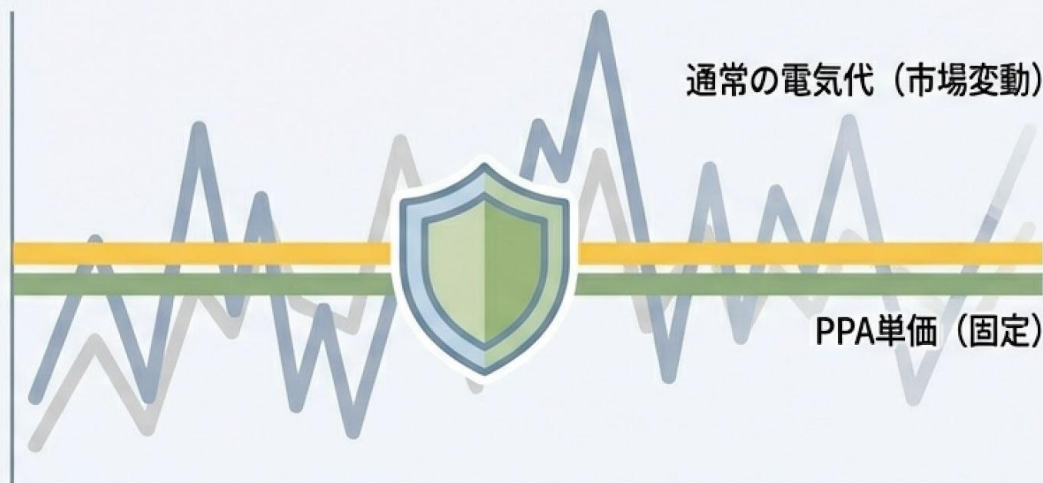


## PPAが選ばれる理由2：維持管理は事業者が担当

- 発電設備は精密機械であり、長期間の運用にはメンテナンスが不可欠です。
- PPAモデルでは、設備の所有権を持つ事業者が、保守点検や故障時の対応を行う責任を負います。
- ユーザーは専門的な知識がなくても、設備の維持管理に関する手間やコストを事業者に任せることができます。



## PPAが選ばれる理由3：電気料金単価の安定化

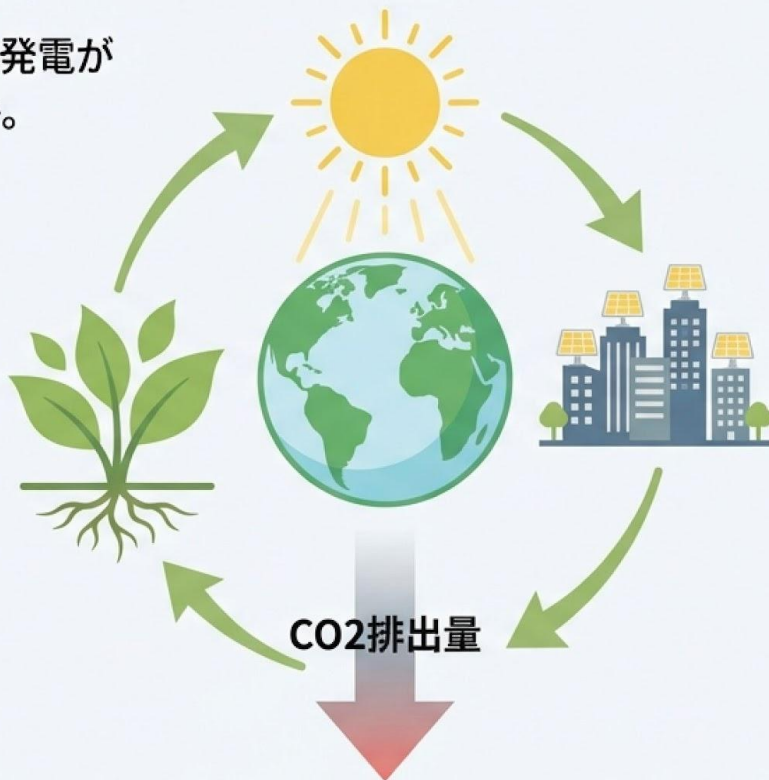


- PPA契約では、電気の購入単価をあらかじめ固定、または市場連動しない価格で設定することが一般的です。
- 昨今の燃料費高騰により電力会社の電気代が変動する場合でも、PPAによる電気代は影響を受けにくい傾向にあります。
- 長期的な光熱費の見通しが立ちやすくなるという、経営的・家計的な側面があります。

# 再生可能エネルギー普及の背景と環境貢献

なぜ今、PPAを含めた太陽光発電が推進されているのでしょうか。

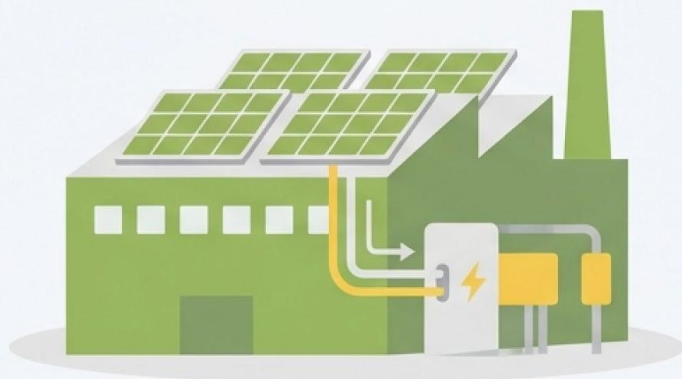
背景には、地球温暖化対策としての「脱炭素社会の実現」や、エネルギー自給率の向上という社会課題があります。



PPAを利用することで、ユーザーは再エネ比率を高め、CO<sub>2</sub>排出量の削減に直接的に寄与することになります。

# PPAの主な種類：オンサイトとオフサイト

## オンサイトPPA



オンサイトPPA

## オフサイトPPA



オフサイトPPA

PPAは、発電設備をどこに設置するかによって大きく2つに分類されます。

- ・ **オンサイトPPA**：電力を使用する施設の敷地内（屋根など）に設置する方法です。
  - ・ **オフサイトPPA**：敷地外の遠隔地に専用の発電所を設け、送電網を介して電気を送る方法です。
- 一般住宅や敷地に余裕がある施設では、主に「オンサイト」が採用されます。

# オンサイトPPAとオフサイトPPAの比較

2つの方式の違いを、設置場所や停電時の活用可否で比較します。

オンサイトは送電網を使わないため託送料金がかからず、災害時にも独立電源として機能しやすい特徴があります。

オフサイトは場所の制約を受けませんが、送電コストが発生し、停電時の直接利用は困難です。

比較項目	オンサイトPPA	オフサイトPPA
設置場所	需要家の敷地内（屋根等）	遠隔地の敷地
送電コスト	不要（直接接続）	必要（託送料金発生）
非常時の利用	◎ 自立運転で利用可	× 送電停止時は利用不可
主な対象	屋根がある住宅・工場	敷地がない企業・ビル

## 契約上の注意点：長期契約の拘束性



- PPAは事業者が投資回収を行うモデルであるため、契約期間は10年から20年といった長期にわたります。
- 🚫 原則として中途解約は難しく、解約時には残存価値の買い取りや違約金が必要になる場合があります。
- 👤 建物の建て替えや引っ越しの予定がないか、導入前に長期的な計画を確認する必要があります。

## 契約期間満了後の取り扱い



- 契約期間満了後は、設置された太陽光発電設備の所有権が、事業者からユーザーへ無償譲渡されるケースが一般的です。
- 🧠 譲渡後は、ユーザー自身の資産となり、発電した電気は無料で使用できるようになります。
- 👤 ただし、その後のメンテナンス責任もユーザーに移る点には留意が必要です。

# まとめ



- PPAは、初期費用の負担なく、管理を事業者任せながら再エネを導入できる合理的な仕組みです。
- 「オンサイト型」であれば、防災面での強みやコストメリットも享受しやすくなります。
- 一方で長期契約となるため、メリットと契約リスクの双方を理解した上で検討することが重要です。